

新防災教育施設基本設計の概要

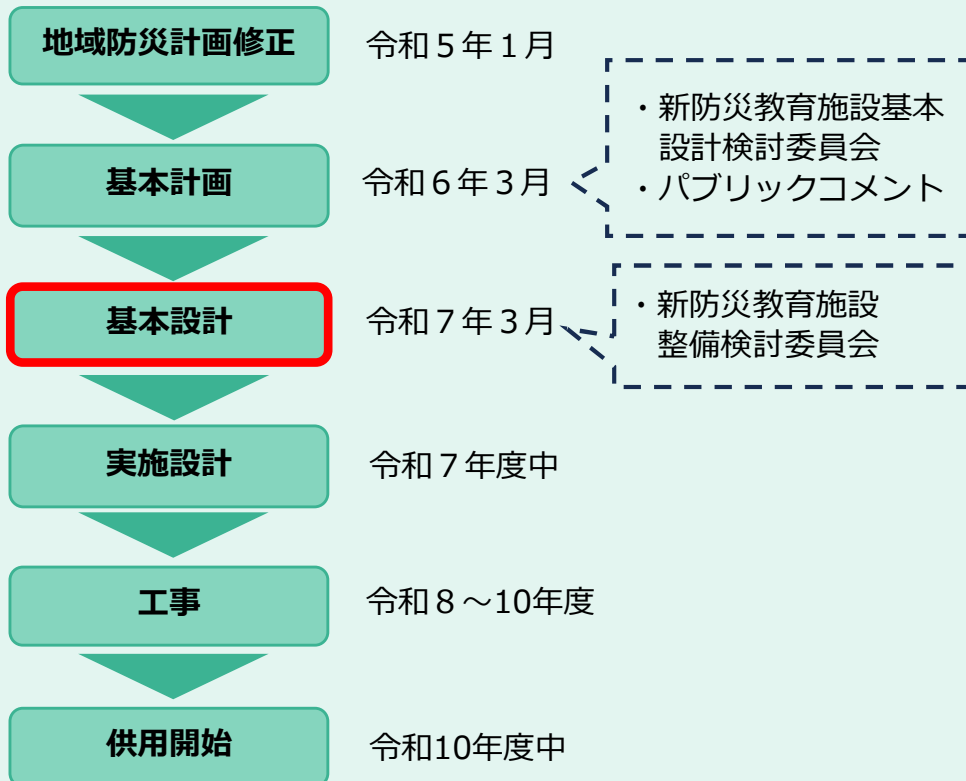
令和7（2025）年3月28日 栃木県危機管理防災局

1 整備経緯

総合防災拠点（県総合運動公園）の

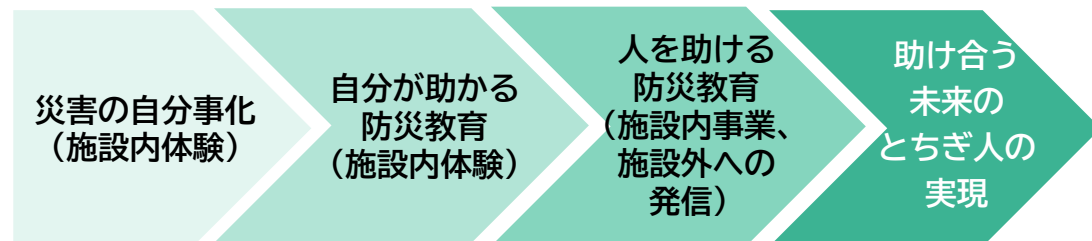
平時からの防災にかかる学習・教育機能として整備

2 整備工程



3 整備方針（基本計画抜粋）

防災教育を通じた「助け合う未来のとちぎ人づくり」のための拠点



施設には、以下の3つの機能を付与する

I つどい機能

ねらい：①総合運動公園という立地を生かした幅広い年代層の来館
②県内の防災に関する人材が集まる場

主な方法：気軽に立ち寄れる工夫（入ってすぐ触れて学べるとちぎ防災エントランス、多目的室・会議室、カフェの設置）

II まなび機能

ねらい：①VR等も活用したストーリー性を持った実践的な学習
②デジタルを活用した年代等に応じて変化する展示による自助から共助までの学びの実現

主な方法：全国初（防災館）360度シアター、過去（未来）の地震を再現できる起震装置、VRゴーグル避難所体験など先進技術の活用

III ひろがり機能

ねらい：①デジタルを活用した防災に関する知識の幅広い発信
②防災に関する人材による地域活動の活性化への支援

主な方法：多目的室・会議室、企画展示・企業展示スペースの設置、VR防災体験車の配置、配信機材の設置

新防災教育施設基本設計の概要

4 展示計画

「まずは自らの命を守り、そして助け合う未来のとちぎ人」が育つきっかけをつくる場
防災について自分事化し「自分で考え続ける」きっかけを獲得する

0. ガイダンス 体験を効果的にするためのガイダンス情報を提供する
諸注意や防災意識醸成の必要性を語った映像視聴

展示

1. VRイマーシブシアター

学びの動機付け

360度シアターで没入感（イマーシブ）のある映像を投影、災害の恐ろしさをインパクトを持って伝える

2. 個別災害体験

「命を守るために取るべき行動とは何か」を災害の種別ごとに体感

地震体験

初期消火

煙体験

暴風雨体験

冠水体験

深掘りコーナー

+

自然現象（雷・突風等含む）メカニズム、激甚化等

3. とちぎ防災エントランス

防災の「はじめの一歩」として身近な生活につなげる

つながり

モノのそなえ

知識のそなえ

+

ライブラリー

※VR：「Virtual Reality（仮想現実）」の略、映像に包み込まれたような高い没入感により実体験のような高い体感性を提供するもの

4. 振り返り 自分はどうしたらよかったのか自分はいまから何ができるかを考え、話し合う
グループで語り合うワーク（会議室または学校で別途実施/別途実施の場合、ワークのためのツールを提供）

活動

施設を中心とした防災人材の育成と地域防災活動の活性化の推進

新防災教育施設を中心として、災害を自分事として捉えて行動するための防災教育を実施するとともに、市町、消防団、防災士、大学などが連携して、次世代の防災人材の育成や地域の防災活動支援を強化

⇒とちぎ防災検討会（仮称）等にて令和7年度から検討

新防災教育施設基本設計の概要

5 配置計画

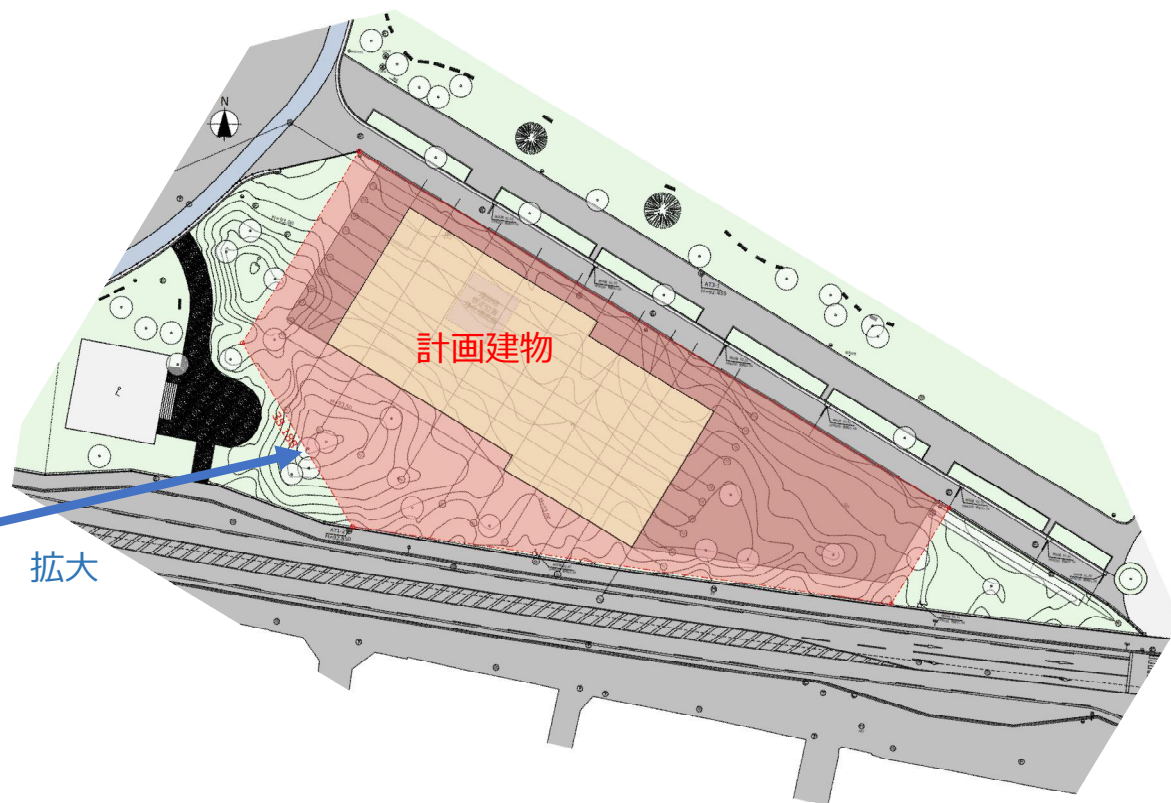
整備場所：栃木県総合運動公園内第2陸上競技場前

規模：RC造1F 延床面積約1,800㎡程度

概算事業費：約26億円

供用開始：令和10年度中

その他：ZEB Ready取得予定



新防災教育施設基本設計の概要

外観イメージ

(北側から)



(南側から)

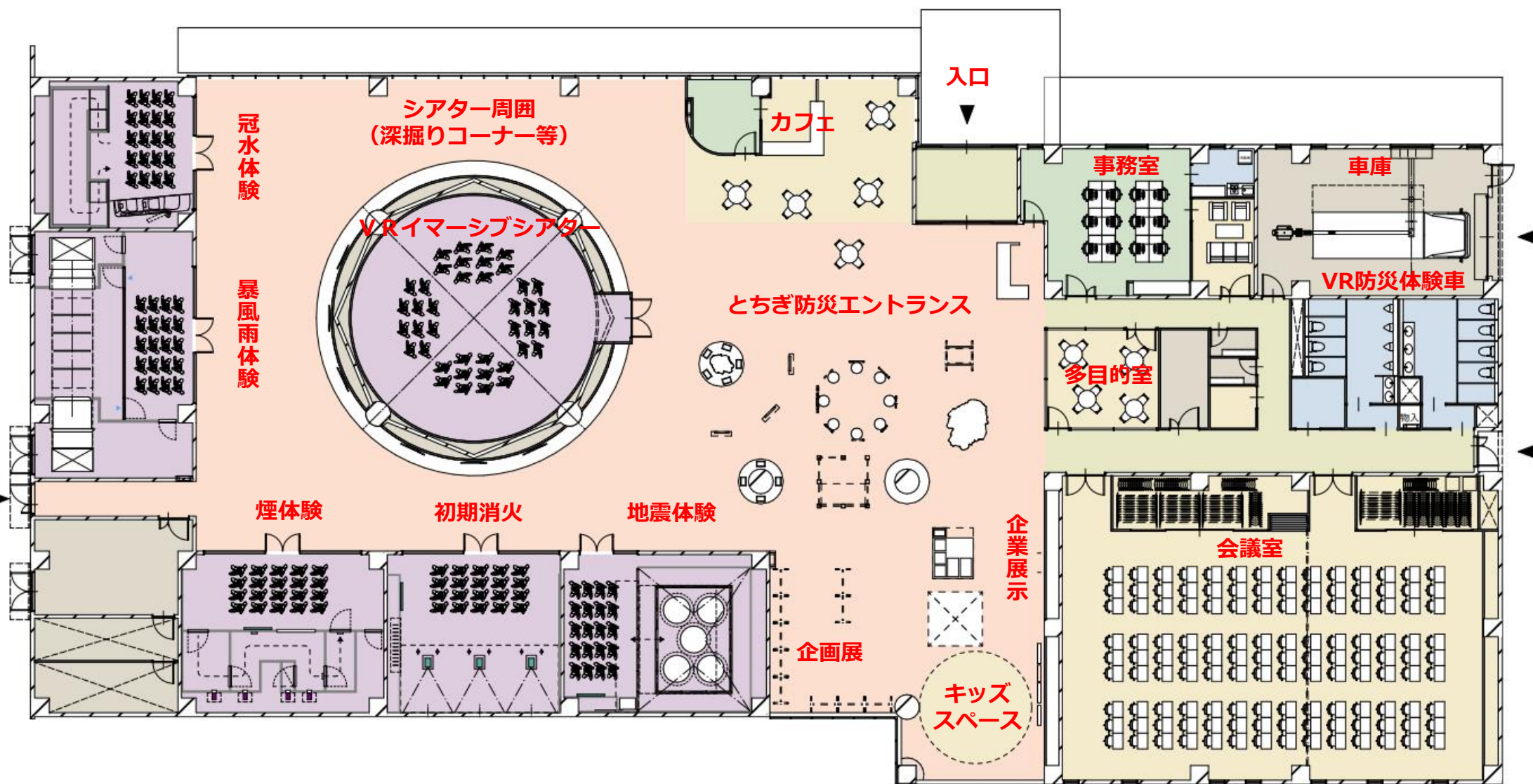


(全体)



新防災教育施設基本設計の概要

6 平面計画



新防災教育施設基本設計の概要

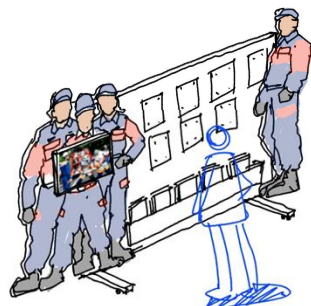
7 展示イメージ図



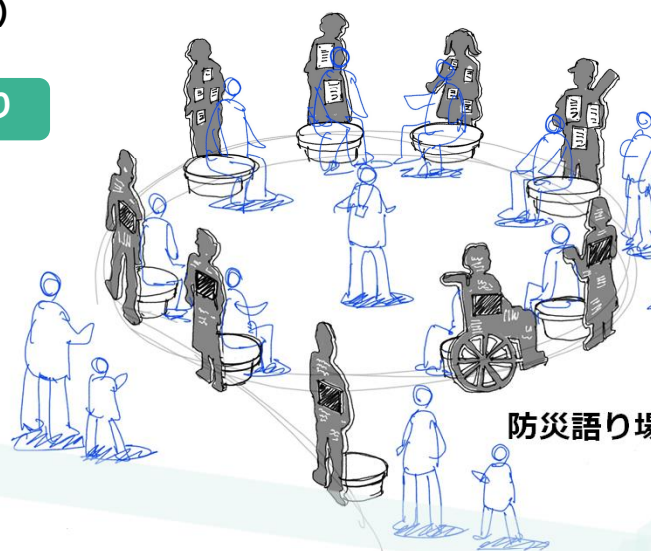
新防災教育施設基本設計の概要

8 とちぎ防災エントランス（主なもの）

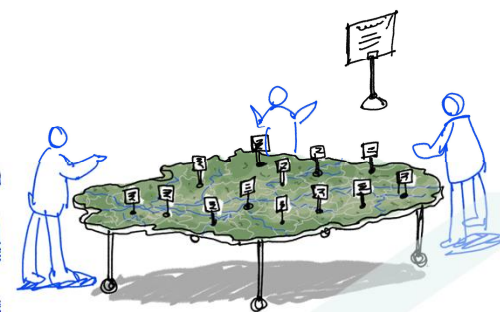
つながり



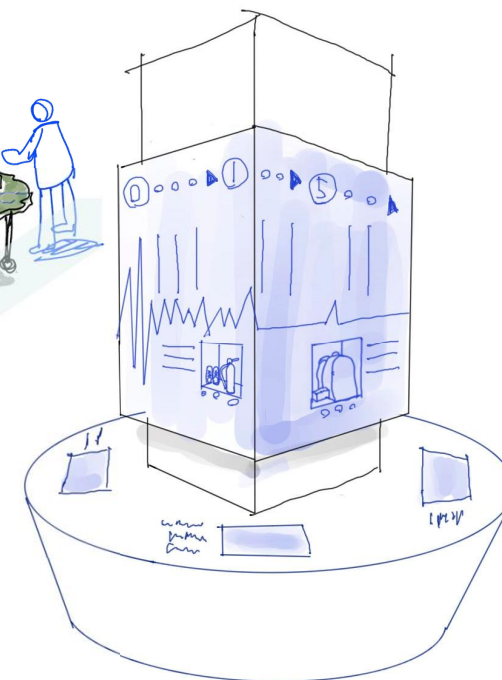
地域防災活動紹介



防災語り場



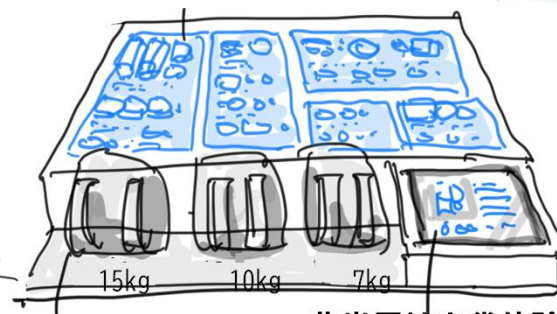
県内好事例紹介



発災直後72時間の行動ポイント



備蓄紹介



非常用持出袋体験

モノのそなえ



趣味と防災（キャンプ等）



避難所実体験

知識のそなえ



VRゴーグル避難所仮想体験



ハザードマップ、マイタイムライン等の確認